



発行所

〒921

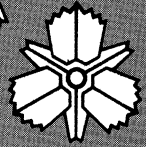
金沢市泉野出町3丁目10-10

石川県立金沢泉丘高校内

一泉同窓会

電話(0762) 42-0211

1994. 3. 15. 発行



伝統を積み重ね、さらなる飛躍を誓う

一泉創立100周年記念式典盛大に



1993年、創立100周年を迎えた金沢一中・泉丘高校。「一泉創立100周年記念式典」は好天に恵まれた創立記念日の10月15日、金沢市の石川厚生年金会館で、在校生・卒業生・来賓ら約1,800人が参加して盛大かつ厳粛に行われた。

式典に先立ち、物故者慰霊祭が行われ、澁谷亮治同窓会会長（一中54期）、宮太郎100周年記念事業推進会議議長（一中51期）らが厳かに献花し、全員が黙禱、冥福を祈った。

続いて藪俊彦氏（泉丘16期）による仕舞「枕慈童」が舞われ、ついで泉丘高合唱部108名による一中・泉丘の校歌斉唱、さらに舞台左の大型ビデオに一泉100年の歩みが映し出され、画面に見入ること20分、記念式典の開会となった。

記念事業実行委員会の米谷半平委員長（一中50期）が「郷愁に浸るのではなく、明日への第一歩を踏み出す日としたい」と開会の挨拶を、澁谷同窓会会長は「明治26年の創立以来、一中健児の自覚のもと多くの人材を輩出してきた。いまは伝統は守るものではなく、日々積み重ねていくもの。在校生諸君には21世紀を見据えて努力と、さらなる飛躍をしてほしい」と後輩を激励しました。小西優校長（泉丘5期）の式辞に続き、太田芳枝石

川県副知事、寺西博金沢市収入役、岡本淳一県教育委員長ら来賓が「一泉100年の歩みは石川県政の歩みでもあり、OBの皆さんが各界で広くリーダーとして活躍していることは、石川県の誇り。質実剛健・文武両道をもってさらなる発展を」と、こども祝辞を。

元同窓会会長、元校長、教職員ら永年勤続者への感謝状贈呈、島厚夫記念事業実行委員会事務局長から記念事業・行事の発表があり、100周年記念基金目録（一泉同窓会基金・7,500万円）が、米谷実行委員長から渋谷同窓会会長へ贈呈されました。そして生徒を代表して前生徒会長の梅田雅也君（2年）が「一泉魂とはどんなことでも一番を目指すことだと思う。その魂は多くの先輩を通じて、今日の私達にも受け継がれているはずです」と喜びの言葉を述べた。

このあと、3年生の井上晶子さんが作詞した記念歌「明日のI（あしたのアイ）」が合唱部によって披露され、指揮は作曲の佐藤真東京芸大教授。「歩いてゆこう 明日に向かい この手で夢を掴もうよ」と澄んだ歌声に聴き入った。

宮推進会議議長の閉会の挨拶、釣谷利夫式典委員長（一中49期）の閉会の辞でしめくくられた。

未来のエネルギー 星のエネルギー 核融合

〈記念講演〉

記念式典に引きつづき、アメリカ在住の核融合研究の第一人者でゼネラル・アトミックス社副会長の大河千弘氏（一中52期）による「未来のエネルギー。星のエネルギー。核融合。」と題する記念講演が行われた。

？理解の範囲？での紹介？でお許しを！！

エネルギーの需要は拡大の一途だが、エネルギー資源には限りがある。しかし、太陽エネルギーは∞(無限大)。太陽エネルギーは核融合によって造り出されている。大河氏の研究は、未来のエネルギーとして、核融合装置を開発して、豊富で、安全で、地球にやさしい、太陽（星）のエネルギーを造り出そうという、夢のような話。そして、研究成果は、夢をほぼ実現に近づけたというから驚き。夜空を見あげ、宇宙へ思いを馳せる“宇宙をめざせ。”とは次元がちがう。宇宙のエネルギーを掌中に入れた大河氏は、「泉丘の生徒諸君、是非、次代の研究の担い手になって下さい」と“新しい世代のエネルギーに点火を！！”された。



「21世紀の文明と社会」テーマに 〈記念フォーラム〉

100周年記念フォーラム「21世紀の文明と社会」が14日、金沢市文化ホールで開かれた。フォーラムは、コーディネーターが三菱総合研究所主席考監の宮川隆泰氏（一中54期）、パネリストは東大教授の藤田英典氏（泉丘16期）、小堀酒造専務取締役の小堀幸穂氏（泉丘17期）、七尾保健所所長の川島ひろ子氏（泉丘18期）の3人。泉丘高校1・2年生、卒業生、教職員ら約1,000人が参加した。

宮川氏らは、21世紀の社会は科学技術の高度化、情報化、高齢化、国際化がいよいよ進み、都市化、工業化、核家族化等に伴う家庭や地域社会の変化と生活水準の向上、自由時間の増大、教育水準の

向上などによって、ますます価値観が多様化するとともに、わが国の国際的役割は増大するだろうと予想し、われわれはどのような文明を築いていくことを目指すべきかについて、それぞれの専門の立場から論じた。そして「21世紀は君達が社会でリーダーシップを発揮するよう求められるだろう」と話した。質疑応答では「優れたリーダーを育てるにはどうすればよいか」「今後金沢はどうあるべきか」といった質問が出された。

人間国宝二氏の作品も展示

〈記念美術展〉

◇一泉創立100周年記念美術展

記念美術展は香林坊大和8階ホールを会場に、14日～19日の6日間、卒業生140名・148点、在校生90名・90点の作品を展示して開かれた。

展覧会は、同窓会展らしく、人間国宝西出大三（一中39期・截金）・同じく隅谷正峯（一中45期・刀剣）の両氏と在ニューヨークの国際的彫刻家新妻実氏（一中56・泉丘2期）、同じくニューヨーク在住の若手映像（ホログラフィ）作家中村郁夫氏（泉丘30期）をはじめ、美術界の重鎮から中堅、新鋭、更には、余技として美術を楽しむアマチュア作家まで出展し、かつ美術のすべてのジャンルを網羅した極めて多様な総合展であった。そして、プロ・アマを問わず、母校の創立100周年を記念する展覧会を意識した大作、力作が多く見られ、バラエティに富むと共に可成り水準の高い、見応えのある展覧会となった。



なお、同展覧会の基礎、一泉桜美会を創設された恩師宮沢外与治先生の遺影と大らかな書と清澄な雪景色の油彩の遺作2点が展示され、展覧会を目前にして逝かれた先生を偲ぶ教え子の姿が印象的であった。

記念美術展の図録を1,000円（送料込み）で頒布します。

お申込は〒920 金沢市南森本ワ31-4
斎藤弥吉（一中49期）まで。

高らかに100周年歌いあげる 〈記念音楽祭〉

“若人賛歌 高らかに”。記念音楽祭を報じた地元紙の四段抜きの見出しである。この賛辞のとおり金沢市文化ホールをほぼ満席にした聴衆は、合唱部80名、吹奏楽部70名の、還暦を過ぎたOBから昨春の卒業生までの力強い美しいハーモニーに魅了された。

OBたちは、パート練習は2年前から夜間に、合同練習は3、4カ月前から日曜日にと精進を重ねてきたという。

第3部では、在校生の応援団員指揮の下、校歌・応援歌を、さらに記念歌「明日のI」を作曲者芸大教授佐藤眞氏の指揮で、高らかに100周年を歌いあげた。



在校生との交歓試合も 〈記念スポーツ大会〉

※記念ゴルフ大会

10月14日 ゴルフクラブ・ツインフィールズで開催、124名参加

※OB会

部 名	期 日	場 所	参加数	懇 親 会 会 場	参加数
野 球	8月6日	市営球場	40	郵便貯金会館	40
	9月1日	※市内OB大会 ※一泉行列 ※現役と試合	10		
サ ッ カ ー	8月13日	本校グラウンド	160		
バスケットボール	8月13日	本校体育館	120	シテイモンドホテル	100
ハ ン ド ボ ール	8月14日	本校グラウンド	40	太平寿し	25
水 泳	8月16日	本校プール	40	石川厚生年金会館	70
陸 上 競 技	10月16日	市営グラウンド	40	会館加賀	80
剣 道 部	10月16日	本校講堂 講演 戸部新十郎氏 本校道場	90	スカイホテル	50
バ レ ー ボ ール	10月17日	本校体育館	100	ニューグランドホテル	130

“100年後の泉丘の姿も” 〈記念展覧会〉



記念展覧会は10月14日から4日間、金沢市文化ホールで開催された。一中・泉丘一世紀の伝統を「一泉人物曼陀羅」や所蔵の資料、映像などで紹介し、在校生から募集した「百年後の夢の泉丘の姿」は、母校のさらなる飛躍を誓ったもので、100周年にふさわしい展示構成となっていた。

また、「宇宙から、地球人へメッセージ」のコーナーは、基調テーマ「宇宙をめざせ、新しい時代のエネルギーに点火を」に基づくもので、子ども連れの卒業生や多くの市民で賑わっていた。



集うわが友一千人

〈記念パーティー〉

10月15日夕6時。金沢東急ホテル5階のパーティーメイン会場は、約1,000名の出席者を得て、まさに立錐の余地もない。明16日の記念音楽祭のために練習を重ねた一泉合唱団員によるコーラス(100周年記念歌、一中・泉丘高校校歌)で開幕。

荒川正パーティー委員長(一中49期)の開会の辞、澁谷同窓会長、米谷実行委員長、小西校長挨拶、肥田保久石川県教育長の祝辞。この日のために詠えられた「一泉」の法被を着ての鏡割が行われ、宮推進会議議長の音頭で乾杯した。

この後5階全フロアーがパーティー会場として開放され、歓談が続いた。「一泉」の法被を着た旧応援団の振る旗に唱和する桜章健児。今宵は皆紅顔の美少年?

パーティー出席者最長老の一中29期・浅野直久氏の万歳三唱の後、吉野外茂勝パーティー副委員長(泉丘11期)の閉会の辞で午後9時を閉じた。

歓楽街は夜遅くまで、一泉創立100周年の記念ポスターが印刷された紙袋を手にした一中・泉丘のOBの姿で溢れていた。



100周年を記念して、県内の一泉OBの酒造オーナー競作の吟醸酒「一泉」が発売され、好評を博した。さすが一泉同窓会ならではの発案。



「金沢一中・泉丘高校百年史」発刊

100周年記念事業の一環として『金沢一中・泉丘高校百年史』も発刊された。

B5判・紺クロス張り金文字のタイトルで前編654ページ、後編378ページの大冊。前編は通史で、一中草創期から戦争前後の混乱期を経て、男女共学の泉丘高校の誕生から現在まで、教育のあゆみなど一校史にとどまらず戦前・戦後の学校教育も展望できる。

後編は卒業生による座談会や回顧録が掲載され、写真も豊富に盛り込まれて読みごたえのあるものとなっている。前後編とも巻頭には学校を語るカラー写真が組まれ、貴重な記念誌。

荒川宏委員長(一中45期)をはじめ垣内謹治(一中54期)、井波外志雄(泉丘3期)、広瀬靖久(泉丘16期)氏ら同窓生10人、学校教職員6人の百年史編集委員が5年間にわたる編集作業を重ねて昨年10月完成した。なお、題字は金田心象先生に師事した荒川委員長の筆になる。

100周年記念名簿『一泉』発刊

「21世紀になっても歴史的資料としての価値を、そして現在では生きた資料としての名簿を作りたい」。南秀男名簿委員長(一中41期)は、100周年記念名簿『一泉』の編集後期に、名簿作成の意識を述べておられる。平石英雄委員(一中41期)の「名簿編纂について」を読むと、いかに根気のいる地道な仕事だったかが伺われる。こうして、9人の委員が中心となり4年の歳月をかけて100周年記念名簿は発行された。

『一泉』の題字は坂野雄一氏(一中54期)。清酒「一泉」のラベルにも転用した。

今回、全同窓生を対象に調査した資料は、コンピューターデータベースとして集録した。同窓生各位に移動がありましたら、一泉同窓会事務局へすみやかにご連絡をお願いします。

なお、各期で、同期生名簿作成の予定がありましたら、データーを提供します。従来より、割安で制作可能かと思います。

掲載会員数延べ29,734人。B5版サイズで名簿部分は従来の物故者一括方式を避けて839頁、索引部分は旧姓でも検索可能な123頁、厚さ約4.5cm

ごあいさつ

一泉同窓会会長・一泉同窓会基金理事長
澁谷 亮治

時のたつのがただただ早く感じられるこの頃であります。昨年の一泉創立100周年記念事業での盛り上り、感激の秋から、御礼のごあいさつが遅れましたが、この一泉22号誌上で改めて深く全同窓会員の皆様様に、御支援御協力御指導を賜りました事に感謝を申し上げます。

各界の方々から、さすが一中・泉丘ならではの、とお言葉を頂き、やはり一泉の絆の固さとするばらしさに胸一杯の思いを致しましたのは私のみではないと存じます。

どうか次なる100年に向けて、更に一步一步着実に前進出来ます様に、関係皆様方に御祈念申し上げますと存じます。

については大きな御理解を頂きました記念事業の

半分の柱としての一泉同窓会基金であります。式典後も次々と御芳志を頂きました。この『一泉』誌上で今後も御披露を続けて参る所存であります。そして更に果実の充実による事業の内容強化のため、各界各社の有志の方々に、募金をお願いを致しました次第であります。

一応基金の初年度はこの3月31日で締めまして、5月中には基金の理事会、評議員会等を開き、一方平成6年度の常任委員会も開催して、今後の更なる推進についてもおはかりを致したいと考えておる所存であります。

どうか、一世紀に及ぶ輝かしい伝統を、湧きいずる泉の如く次代に継承すると共に、永遠なる母校の発展と、心豊かな人材育成への願いを込めた本基金の趣旨御理解を頂き、今後とも更に広く深く御支援の輪を拡げて頂きます様に、心からお願い申し上げます。

終りに同窓各位の益々の御健勝御発展を祈念申し上げます。

一泉創立100周年記念事業募金一覧表

1993年11月末日現在(単位千円)

卒業期	募金額	募金人数
一中19	5	1
20	50	1
21	100	1
22	10	1
25	91	3
26	45	6
27	60	7
28	30	5
29	45	6
30	105	11
31	143	16
32	1,210	25
33	465	33
34	275	21
35	340	40
36	335	50
37	322	39
38	320	61
39	580	55
40	885	60
41	1,070	75

卒業期	募金額	募金人数
42	920	83
43	680	44
44	982	73
45	797	82
46	1,218	83
47	791	82
48	989	81
49	2,137	129
50	2,630	118
51	2,320	100
52	2,835	124
53	2,890	105
54	2,570	128
55	3,170	146
一高	720	30
一中・泉丘		
56・2	2,540	122
57・3	4,325	213
58・4	4,925	242
泉丘5	4,460	212
6	5,018	

卒業期	募金額	募金人数
7	5,100	
8	5,640	302
9	6,505	323
10	5,373	259
11	5,135	242
12	5,440	285
13	4,817	212
14	5,210	306
15	5,719	221
16	4,860	176
17	3,770	220
18	5,720	281
19	3,725	192
20	2,965	222
21	2,423	154
22	1,834	92
23	2,118	112
24	2,239	115
25	1,565	128
26	1,671	85
27	1,662	88

卒業期	募金額	募金人数
28	1,185	55
29	956	113
30	1,325	
31	1,215	92
32	775	
33	637	62
34	882	42
35	746	
36	809	104
37	1,015	96
38	710	109
39	717	113
40	605	106
41	740	135
42	763	133
43	110	18
44	85	
45	130	
通信制	3,791	595
その他	105	
計	154,239	

「一泉同窓会基金」の設立

一泉同窓会基金事務局長
奥田 徹 (泉丘6期)

一泉創立100周年記念事業の大きな柱として計画された一泉同窓会基金が、同窓生の皆様をはじめ関係企業の深い理解と力強い支援を得て基金額7,500万円で設立されました。

本基金は、21世紀に向けて母校のより一層の発展を願うと共に、在校生のより充実した勉学環境作り等、健康で心豊かな人材の育成を目的とするもので、基金の果実によって本学関係者の国際交流、学術研究等に対して助成事業を行なう予定です。

また、本基金は助成事業のより一層の内容充実を期するため、設立後も継承事業として基金の増額に努める計画となっております。

現在、基金額1億円を目標に関係企業への募金活動を実施しておりますが、基金事務局(同窓会事務局内)では今後も常に寄附金の受入窓口を開設し、本基金が十二分にその使命を発揮できるよう皆様方の格段のご支援とご協力を待っております。

一泉100周年を記念し 母校へバス寄贈

一泉創立100周年を記念して、一泉同窓会から母校へ「バス一台」が寄贈されることになった。

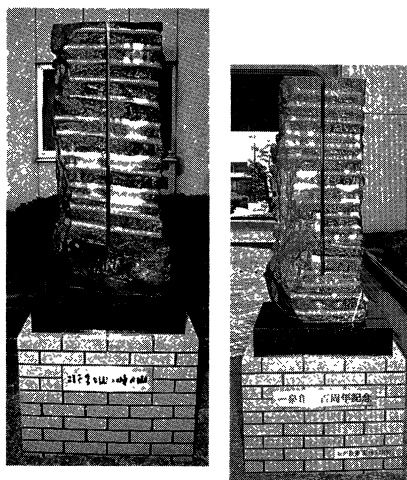
バスはかねてから要望の高かったもの。

皆様のご協力で達成された100周年記念事業等の余剰金の有効利用として急遽寄贈が決定した。



一泉創立100周年記念モニュメント 『山の如く、山のように』

アメリカ在住の石の彫刻家、一中56期・泉丘2期の新妻実氏が、100周年記念美術展に出品された作品『山の如く、山のように』が氏によって母校へ寄贈された。これを受け、1994年2月21日、100周年記念モニュメントとして除幕式が行われ、除幕式のあと、在校生を対象に新妻氏の講演会が開催された。



ビジュアルな校史 ビデオ「心身一如の歩み」

泉丘高校の歴史は明治26年(1893)7月、県立石川県尋常中学校が設置されたことから始まる。

しかし、沿革にこだわればそれより更に12年さかのぼり、石川県専門学校予備科が創設されたことから始まる。

この100年の間に日本は大きく変化し、数多くの混乱、困難そして幸運にもめぐまれて今日を迎えております。

この時代に私たちの先輩はどのように生き抜いてきたのか、私たちの郷土はどのように変ったか、これらを検証し記録にとどめる仕事をこのほど同窓会が企画し、VTRテープとして完成しました。それは「心身一如の歩み」という作品名で私たちの100年史を映像化し、北陸放送から放送されました。

※「心身一如の歩み」(VHS 30分)は県下有名書店のほか北陸放送でも販売中。定価4,600円(消費税・送料含む)

100周年に想う

一中33期 藤田 誠一

この度の母校創立100周年は、文字通り100年に一度の大事業であると同時に、まさに世紀の快挙であった。

80周年、90周年の大事業を見事遂行された前会長宮太郎氏の跡を享けた現会長澁谷亮治氏は就任以来、今回の100周年を目前に、母校の歴代校長以下諸先生方の絶大なご協力のもとに企画設計され、各部門担当の役員の皆様方のご努力、ご尽瘁に支えられて今回の壮挙を完遂されたことは、吾ら同窓一同の無上の喜びとするところである。

基金活動に始まる各種の記念事業行事が本誌に掲載発表されている通り、総てが大成功裡に完結し得たことは洵に同慶の至りである。

抑々一中同窓会が結成されたのは1908(明治41)年8月2日、同年10月15日に厳霜碑が建立されたのを記念して、当日を以て創立記念日と定められた由、次に戦後学制改革によって結成された一高・泉丘高同窓会と一中同窓会が初代会長英安吉氏(一中18期)や山本外吉校長等のご努力によって円満に合体し、今日の一泉同窓会が結成されたのが1955(昭和30)年2月13日と年史に記されている。

過去の同窓会発展に献身的に尽力された英の栄ちゃんこと故英安吉氏、一中の主と慕われたデモ先生こと故吉野勝太郎氏、同窓会事務局の基礎を築かれた故四井謙次氏(一中22期)、更には90周年事業に文字通り身命を賭した故西多外喜次氏(一中38期)等々が懐しく想い出され、唯々ご冥福をお祈りするのみである。

さて、吾々が在籍したのは所謂大正デモクラシーの時代、1922(大正11)年の30周年記念は10月15日の記念式に始まり、連日校内弁論大会や柔剣道を始めとして相撲、ボート、野球、庭球等のスポーツ大会、さては厳肅な武道場の養浩堂を舞台に換えての演劇演芸大会等々で8日間を通して授業もなく、お祭り騒ぎののびのびとした時代であった。

その後、戦時中の50周年、図書館棟建設の70周年「桜章校跡地」の石碑建立の80周年、新校舎完成の90周年と、夫々の記念事業全てに参加することができた幸運を喜びとしている。

前回の90周年の式典には吾々三三会員は30数名が大挙して参加したのに、今回の式典に列席したのは僅かに3名のみ。募金活動に協力してくれた33名中、この盛典を見ずして他界した者すでに8名。寂しい限りである。

人生有限、されど同窓会は無限。
母校の益々の弥栄を祈念して擲筆する。

喜びの言葉

生徒代表 梅田 雅也

創立100周年という年に生徒会会長になってここで挨拶するということは、とても名誉なことだと思いますが、今とても緊張しています。この緊張が、100年という重みなのかかもしれません。

その100周年に向けて、文化祭の行事として先月の初め、4回目の一泉行列が行われました。一泉行列には金沢第一中学校から金沢泉丘高校まで一中魂を運ぶという目的があります。

一中魂とは「どんなことでも一番を目指すこと」だと私は思います。

その魂は多くの先輩を通じて、今日の私達にも受け継がれているはずです。

そんな先輩方の足跡の一部として、生徒会室には古ばけたファイルがあります。そこにはカルタ大会、記念祭とともに行われていた運動会、二水高校との交歓会などといった今では見られない行事や当時の盛んな生徒会活動を示す記事が、長い時を経て黄色く変色した紙にしっかりと記録されています。

その紙の変色のすごさに遠い過去のことなのだと思うのですが、よく考えればそれも20数年前のことではありません。

100年という歴史は想像もつかないほどの昔だと思う一方、しかしそれは確実に学校が歩んできた道であります。

100年の間に多くの先輩が金沢第一中学校や金沢泉丘高校を卒業していかれました。

昔のファイルが教えてくれるように、その多くの先輩にも熱いものがありました。卒業し、今は社会に出られて様々な分野で活躍しておられると思います。しかし、普段の生活のなかで以前持っていた熱さを感じることは少ないのではないのでしょうか。

金沢第一中学校金沢泉丘高校を思い出すとき、その熱さがよみがえってくるのではないかと思います。よき思い出の存在する場所として、そしてこれからよい思い出をつくり出せる場所として金沢泉丘高校がありつづければよいと思います。

一中魂を受け継ぎ、心の故里としてこの泉丘高校が発展することを願い、100周年記念基金が今ほど贈呈されました。

先輩の方々に厚く御礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

同窓生の集い

【一中39期(昭和7年卒業)七桜会100周年記念大会】

10月14日一泉100周年を記念して前夜祭を開催。大和の桜美会の展覧会を見て2時30分香林坊に集合し、旅館の迎えバスで秋晴れの加賀路を進み「歓迎金沢一中七桜会」の看板にむかえられ宿泊の粟津温泉天翔閣に到着する。

将に傘寿をむかえんとする住年の桜章健児も大分白髪禿頭脚腰も弱ってきた。昨年の大会に元氣に出席した赤君が今は亡く、又4名が体調を悪くして欠席した。1年1年減ってゆくばかり何だか淋しい気がする。近況消息を見ても多数の友が病で困っているようである。この度の大会に元氣で出席出来た喜びは一しほのものが有り感慨無量であった。

今回は遠来の前田、伊藤、高松、高村義の4名と計18名の出席であったが、再会の幸せを強く感じた。戦乱の中を過ごした青春、桜章校時代を過ごした本多の森の5年間が走馬燈の如く想い出される。

岩脇、三須君の携行した円八のあんこで抹茶一服をいただいた後記念撮影をして懇親会に入る。一杯アルコールが入ると仲々元気で小唄、謡曲、詩吟に引続き一中応援歌、校歌と楽しい一時を過ごす。2時間の懇親会が盛会裡に終わっても床に就く者なく一室に集合し夜の更けるのも忘れ話に花が咲いた。

翌朝10時旅館を出発し、泉丘高校に立ち寄り花を捧げ厳霜碑に拝す。17名の十五年戦争戦没者を含む今は亡き学友109名の冥福を心から祈り黙禱を捧げる。これよりお別れ昼食会の兼見御亭に行き、来年の再会を期し散会する。引続き記念すべき一泉100周年記念式典に参列しあらためて金沢一中時代を想起した。



出席者

浅香鉄次、伊藤直之、岩脇他計雄、川崎芳雄、塩田和一郎、高村一吉、高村義次、長沼久喜、福田外喜二、前田弘、三須外男、南為二、宮野三郎、村田小太郎、村田尚一、吉岡秀雄、吉田克己、山瀬芳男
(山瀬記)

【一中41期生(昭和9年卒業)全国大会】

日時 平成5年10月14日～15日

場所 湯涌温泉 あたらしや

今年の大会は一泉創立100年式典の前夜祭と銘打ったとはいえ、3年続きの全国大会なので参加者の減少が危惧されたが、案の定7名減の26名で聊か寂しい感が無きにしもあらずであった。

例年の通り本多町公園(一中上の運動場跡)に集合し、直ちにあたらしやに直行した。一風呂浴びた後、平石世話人が司会し、歓談の場を持った。先づ牧沢世話人が挨拶し、一泉創立100年記念事業に対する同期生の寄付金達成率が164%と各期中8位で、面目をほどこしたことに感謝した。引き続き各人2分かきりの近況報告に移ったが、話に熱が入り持時間の超過を知らせるチーンという茶碗の音もそっちのけで熱弁を続ける者続出。笑いの中でこの年齢(77歳～78歳)でこうした同期生会に参加し旧交を温め得たことを喜び合っているのが印象的であった。

記念写真撮影後の懇親会では南秀男世話人が例の“ふんわかムード”で会を盛り上げた。酒量よりもお互いに話合うのが何よりも御馳走のようであった。

翌日は朝食後貸切バスで泉丘高校前庭の厳霜碑に参り、碑に刻んである戦死した同期生の名を見て当時を偲び其の冥福を祈った。ついで卯辰山へ車を走らせ望湖台の立派さに金沢在住の者でさえ驚きの目を見張っていた。卯辰山県民公園芝生で、雲一つない秋晴れの下、野宴を開き、大会の余韻を楽しみつつ、一泉同窓会100年式典の会場石川厚生年金会館へ向った。

参加者は次の通り

青木、池田、伊佐、岸原、小泉、越田、近藤、重田、清水、庄田、杉田、竹村、田中(喜)、飛世、野上、野崎登、藩、平石、牧沢、水本、南(秀)、矢部(睦)、山口、芳田 (牧沢善二記)



【一中42期(昭和10年卒業)十桜会全国総会】

毎年恒例の十桜会総会を湯涌温泉“湯の出”で開催した。今年は吾々の大半が数へで77歳の喜寿を迎え、又母校の創立100周年という、大変意義深い記念の年でもあって恩師藤田先生、塚野先生をはじめ同伴夫人を含め出席者47名の盛会となった。

先づ本年91歳で天寿を全うされた恩師宮沢外与治先生と会員4名(既報)のご冥福を祈って黙祷を捧げた。続いて梶川会長の開会挨拶、塚野、藤田両先生よりお言葉をいただき、諸江幹事の“経過と会員の消息”について報告があったが、会員は今年奇しくも現存者と物故者の数が丁度半々となった。

尚100周年募金達成のお礼と一泉同窓会基金の増額と継続についての協力をお願いして閉会した。

引続いて祝宴に入り、“湯の出”おかみの特別サービスの“加賀百万石太鼓”や珍味“ごりの骨酒”で大いに盛り上がり、校歌や“南征の調べ”他応援歌を歌いまくり若き日の情熱をかき立てて久し振りに古里金沢の秋の夜長を存分に楽しんだ。

翌朝全員マイクロバスに分乗して記念式典に参加し、100年の歴史の伝統と重みを痛感し大河千弘講師の“未来のエネルギー。星のエネルギー。核融合。”の講演会終了後解散した。

尚希望者17名は“河内千丈温泉”の迎えのマイクロバスで午後5時30分旅館“清流”に到着、夜は二次会で更に氣勢を上げ、一泊して翌16日は記念美術展(大和)記念展覧会を参観し、来年の再会を約して惜別した。

出席者

(恩師) 藤田先生、塚野先生

石田(同伴)、上島、雄谷、久保木、久保田、鴻野(同伴)、中谷(郁)、中谷(外)、西村、古沢、山崎、米山、山本(欽)、沖野、酒井、玉村、二口、浅本、柿木(同伴)、梶川、葛西、笠間(同伴)、久間、小泉、駒居、坂本(同伴)、柴野、杉谷、高畠、東、細木、松本、室木、八尾、諸江(同伴)、再田、吉村、吉田さん、井口さん(諸江記)



【泉丘3期(昭和26年卒業)一二三会(一中57期)】

泉三^{ちんさん}会、一二^{ひふみ}三^{さん}会(一中57期、一中併設中学昭和23年卒業)の合同同期生会は、100周年記念式典の日10月15日19時より、センチュリープラザ医王の間に於て開催された。出席者泉三会男40名、女20名、一二三会14名。

私たちは学制改革の年、新制高校1年入学の期である。過渡の状態のうち、試行錯誤の中で高校生活を共に過した連帯感は今も消えず、同期会に繋っているのだと思う。何時しか隔年毎に確実に行なわれている会には遠方からも多数の参加があり、常に盛会である。

特に、今回は金沢を離れて30年、40年という方の初参加もあり、手を取り合い、涙して再会を喜びあった。
(神尾茂子記)



一中56期・泉丘2期同期会開催予告

I 期 日：平成6年8月13日(土)

会 場：鏑 甚

(金沢市寺町 ☎0762-41-2181)

世話人：普 神 貴 行

(☎0762-91-3468)

II 期 日：平成6年10月15日(土)

会 場：栃木県鬼怒川温泉(旅館は5月上旬までには決定予定)

世話人：村上 満(代表)、大西喜枝、北山久幸、白尾 惇、長林 茂、松田耀子

会員諸兄姉におかれては、上記期日をご記憶の上日程をお組み下さるようお願い上げます。

尚、詳細は予定が確定した段階で、各位にご連絡をする心算です。

【一中53期（昭和20年卒業）の集い】

・100周年記念全国大会

平成5年10月15日、母校創立百周年記念式典・祝賀パーティーには、同期生45名が参加した。ある者は記念式典の感激を胸に、50年振りの金沢の街の秋を楽しみながら、またある者は香林坊大和の記念美術展を観賞して、祝賀会場の東急ホテルに集った。後日記念事業実行委員会の解散会の席で「一中で一番参加の多かったのは53期の45名である。」との報告があったように、三つのテーブルを占拠して、すこぶる意気盛んなるものがあった。今回特筆すべきは、卒業以来消息の分からなかった浦山昭兵君が参加してくれたことと、石川弘参議院議員が公務多忙のなか東京からかけつけてくれたことであった。なお二次会は、同ホテルの17階ラウンジに席を移し、静かな雰囲気の中で時間のたつのを忘れて語り合った。特にわれわれが一

中2年のとき迎えた五十周年記念のことが話題となり、“泉野原の高窓にめじ遙かなる日本海……”。式歌を口ずさむものもあり、懐かしく当時を振りかえった。そして、名残りを惜しみながら、再会を約して散会した。（高川義一記）

一中53期石川弘君が知事選に出馬

同期の石川弘君が知事選出馬を決意し、この3月2日、石川県入りした。これをうけて、同期の有志が集まり、急遽“石川弘を支える会”を結成し、支援団体の第1号として名乗りをあげ、支援の輪を広げる活動に入った。かつて参議院全国区で当選したとき、われわれが贈った“七十猶栽樹”の漢詩の一節を、今度は石川県のために大きな夢のある木を植えて欲しいものだと、53期生一同の期待を代弁して筆を措く。（高川記）

畏友・石川弘君

一中53期・荒崎良徳
(金沢南無の会々長)

石川弘君は、私にとって兄貴みたいなお人である。女子師範付属幼稚園・同小学校・金沢一中と、ほぼ10年にわたって机を並べ、共に遊んできたが、常に石川君はリーダーだった。といっても、世にいうガキ大将、つまり腕力で手下を押さえ込むというタイプではなく、ごく自然にリーダー的な役割を果たしてしまうという、いわゆる人徳みたいなものが、子供の頃から備わっていたようだ。

私は彼を見ると、三国志の劉備玄德を連想してしまう。いわば傍らにいと安心できる人というタイプの人である。

石川弘君は、意外な面も持ちあわせている。その一つが調理士免許を持っていることだ。静岡県の水産部長を勤めていたとき、漁師たちが彼の人徳を慕って魚を度々届けたいらしい。それも大きな魚を丸ごと一匹である。夫人の代わりに包丁を持ってさばいていくうちに、料理を作ることが面白くなり、ついに調理士免許を取ってしまったと彼はほほ笑む。だから、彼は料理についてはうるさい男の一人である。しかし、今流行のグルメと

やらではなく、心のこもった料理であるか否か、素材の持ち味を充分に出しているか否か、を見分けることのできるうるさい男なのだ。

石川弘君が故郷へ帰って来たとき、一番先に赴く所は、ご両親・ご先祖の墓前である。そして、心から感謝を捧げ、手を合わせてから、目的の仕事に邁進する。宗教者としての立場から言わせてもらえば、彼こそほんものの人間であると断言して憚らない。両親・先祖に合掌するということは、自らのいたるなさを知り、お蔭さまということの本当の意味を熟知した者の行いである。そして、自らをそのようにとらえ得る者こそ、心から他人の言葉に耳を傾けることのできる大きな包容力の持主でもあるに違いない。

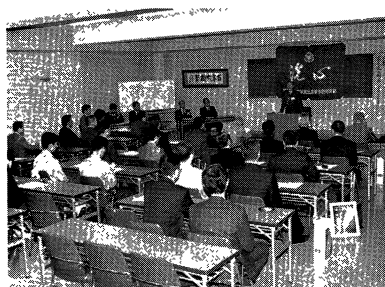
石川弘君も私も、老齢年金を頂戴する年齢になった。私はこのことを一抹の寂しさとともに、大きな誇りとして受け取りたい。何故ならば、若かった頃には見えなかったものが、よく見えるようになったからだ。よく見えるようになれば、より正確な判断を下せるはずである。かたよらない、こだわらない、とらわれない判断である。これを称して円熟という。石川弘君は、まさに円熟しきった頼もしい人物である。

現役の飛躍に熱い思いを！

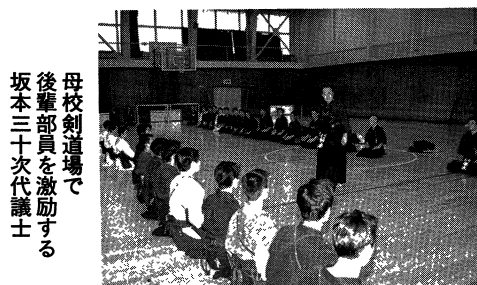
◇一泉剣友会

一泉剣友会では、1993年10月16日午後会員40名が母校に集まり、総会を開き、母校剣道部に対し、試合用防具と衣袴、竹刀袋、部旗および会長揮毫の扁額を贈呈した。引き続いて、会員の剣豪作家戸部新十郎氏（一中51期）が「古武道と剣道」と題して記念講演し、人を切るための古武道がスポーツとしての剣道に変わった歴史を解説した。その後、体育館で坂本三十次代議士（一中47期）ら会員と現役約60人が合同稽古を行い、爽やかな汗を流し、坂本代議士が現役部員に激励の言葉をおくった。また、スカイホテルで行われた懇親会では自己紹介に立った会員は交々現役当時を語り、懐古談に花が咲いた。また母校剣道部の活躍に期待する熱い思いが話し合われた。

（高川義一・一中53期記）



戸部新十郎氏の講演



母校剣道場で後輩部員を激励する坂本三十次代議士

【泉丘10期（昭和33年卒業）泉寿会】

◆関西泉寿会

1993年11月27・28日。梅原兼興関西泉寿会会長の案内で古寺巡礼。出席はわずか8名であったが、生駒簡保センターで宿泊。幹事、長谷川信夫君。手作りの刺身と金沢より持参の清酒「一泉」で夜ふけまで談笑。（岡本章記）

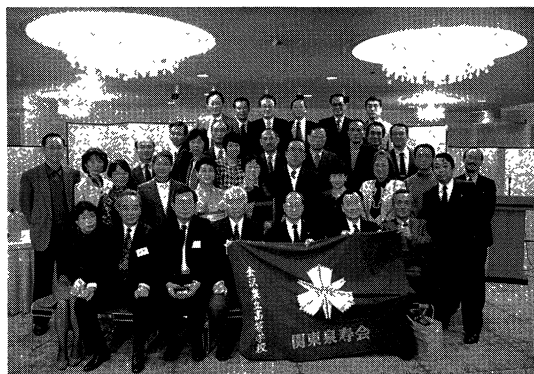
◆関東泉寿会新年例会

1994年1月30日（日）東京・錦糸町駅前ロッテ会館にて、西野恩師（数学）をお迎えして恒例の新年例会を開催。金沢や名古屋の人を含めて34名が集い、青春時代の話を楽しませた。

泉丘10期生は、1978（昭和53）年8月に同期会

を泉寿会と命名。関東地区では翌1979年1月より関東泉寿会新年例会をスタートさせた。

昨年は、母校創立100周年記念の年・泉丘10期生は卒業35周年の年、そして本年は、55歳を迎える年とめでたいことがらが続いていることから「泉寿会主催、関東泉寿会企画」の海外ツアー（ハワイ）を新年例会で発表、ただ今参加者の募集をはじめたところです。今回は泉寿会10期生に関係のある人だけです。すみません。（金子兵衛記）



281名がつどって母校100周年祝う

—関東一泉同窓会—

関東一泉同窓会（浦茂会長・一中34期）では、母校100周年を記念して1993（平成5）年11月26日、東京・グランドビル市ヶ谷の大ホールで総会・懇親会を開催した。参加281名。

来賓として渋谷亮治本部長、島厚夫100周年記念事業事務局長、小西優校長、それに石川弘参議院議員（当時）が出席。

本年は泉丘14期が当番期。中西健氏の司会で、まづ俣見崎俊行氏の挨拶で開会、浦会長が「本同窓会は創設以来45年を経、また母校100周年を迎えて本日は意義ある日。一層の発展を期したいものです」と挨拶。来賓の紹介があり、小西校長と島事務局長から、それぞれ同年10月15日行われた母校100周年記念式典の盛大な模様と、学校の近況が報告されました。

物故者の冥福を祈って黙禱を捧げたあと、役員改選に移り、新会長に河毛二郎氏（一中43期・新王子製代会長）を選任、副会長に瓜生復男（一中39）、高浪克子（泉丘4）、大西忠（泉丘10）、村上与恵（泉丘12）、顧問に下村節義（一中32）の各氏を選任した。河毛新会長の挨拶があり、つづいて威勢のよい鏡開きが行われ、脇水利勝氏（一中35期）の乾杯音頭で懇親会へと移った。

校歌、応援歌の斉唱、時を忘れての歓談に同窓会のきずなを強めた一日。席上、浦会長はじめ永年功労のあった方々に記念品と花束が贈られた。

名簿『一泉』訂正表

頁	●印が訂正箇所
17	職員 稲井右●昭和26. 5～ 商業
36	一中6 ●竹村 勘悉
82	〃 22●妹沢 克惟
88	〃 24●渡部 武雄
108	〃 30 明田弥三央 ●(元)トヨタ自動車(株)
138	〃 37 笠嶋 伍朗 ●旧日体専
158	〃 41 棚田 巖 ●桐生高工
160	〃 41 吉岡 健三 ●桐生高工
173	〃 44●水口 慶次
195	〃 49 尾戸 嘉博 ●明治大学
217	〃 53●安宅 昭英
224	〃 54 垣内 謹治 ●金大 (理)
255	〃 58 高多 明 ●生存 〒108東京都港区三田2-7-22MTアリーナ(03-3451-5388)
272	泉丘2 中野 達也 ●生存
377	泉丘11 細川 (三宅) 真理子 ●生存 〒214川崎市多摩区南生田6-5-13 (044-977-6547)
387	〃 12 富田 征子 石川郡野々市町三納361-1
414	〃 14 田原 健夫 ●生存 〒136東京都江東区東砂4-1-6 (03-3648-5243) (株)フジヤ (03-3522-2200)
724	〃 42 小島 健史 0762-58-2738

今後共、誤りにお気付きになりましたら、一泉同窓会事務局へご連絡下さい。

◇金沢一中の校旗(複製)を寄贈

一中49期では、卒業50周年を記念して作った旧一中の校旗を母校の創立100周年を機に同窓会へ寄贈しました。



今後、同期会などで利用ご希望の折は同窓会事務局までお申し出ください。

一 あ と が き

暖冬異変の連続で、冬将軍ともすっかりご無沙汰していましたが、今年は久しぶりに金沢らしい雪の毎日でした。

100周年記念事業・行事等の広報の役割を担った『一泉』。記念祭も盛會裡に終了し『一泉』もその責を果たすことができたかとホッとしています。

遅れ馳せながら100周年記念祭の模様と募金協力者一覧を掲載した『一泉』22号を発行します。御芳名の活字を今少し大きくと思いましたが、紙幅の都合もありお許し下さい。

『一泉』23号からは、同窓会員相互の語り合いの場としてご利用下さい。ご寄稿をお待ちします。

会員の皆様のますますの御健勝をお祈りします。

発 売 中

『金沢一中・泉丘高校百年史』

(送料込7,000円)

一泉同窓会名簿『一泉』(送料込4,000円)

一泉人材マップ (送料込2,500円)

一泉同窓会事務局へ申し込んで下さい

『一泉』編集室

高川 義一 (室長 一中53期)

堀口 渉 (一中45期) 荒木澄子 (泉丘3期)

浅香以都子 (泉丘10期) 小林弘子 (泉丘12期)

題字・坂野雄一 (一中54期)